

万円の増となりました。昨年度の北海道市場ではセプテンバーセールが新設され、総売上も一昨年に続き100億円を超える活気に満ち溢れる1年となりました。また昨年は5月26日に東京競馬場で開催された令和最初の「第86回日本ダービー」を(有)飛野牧場生産のロジャーパローズ号がコースレコードを更新して優勝し、(有)コスモヴェーフาร์ม生産、ウインブライト号が香港でのG1を2勝するなど、静内産馬が大きなレースで活躍する1年となりました。改めて、生産牧場の皆様にお祝い申し上げ、引き続き競走馬生産振興事業を中心に生産基盤の強化に協力していきたいと思っております。

昨年の軽種馬以外の農畜産物販売高は23億1,400万円、前年から見て3,100万円ほど減少しております。このことは先に述べたように生産量に比べて価格の低下が原因と思われ、今後当JAの農業の振興は新農業振興5ヶ年計画をもとに目標数値に達するように戦略作目のミニトマト、万馬券、黒毛和牛を中心に新たな市場開拓や就労、就農への新たな展開、また、生産活動の基盤づくりのため、関係機関に積極的な協力要請など組織的な取り組みに力を入れていきたいと思っております。

令和元年度の財務の決算は、各事業ともにおおよそ計画通りに推移しており、当期の剰余金も見込んでまいりましたが、令和2年度より専門農協となるため、できる限り今年度内で費用計上できるものを処理させていただきます。そのことを組合員の皆様にはご理解いただきたく思います。

JA運営に向けた取り組みは1月12日の信用事業の譲渡より、今後は農協の基本となる生産・販売・購買が基本となつての組織運営をしていかなければなりません。昨年度にも説明させて頂き、具体的な金額は示しませんでしたが、令和2年度からは営農指導費や産業奨励事業に關しまして、平成13年度まで頂いておりました賦課金基準も現状に合わせた基準とさせていただきます。また、販売手数料に關しても、戦略作目に対する担い手、新規就農に対する育成支援、選果場や市場対応整備、所得向上に対する費用などに充てていくと共に合併協議時に提示した基準、あるいは管内平均基準を見ながら再度の基準を設定しました。何卒、今後のJA事業に關わることなのでご理解を戴きたいと思っております。

最後になりますが、本総会には8つの議案を上程しております。何卒、

ご理解の上ご審議をよろしくお願ひ申し上げます。

再度申し上げますが、信用事業を持たない専門農協として、組合員の皆様方には大変ご心配をおかけしましたがが無事今年度、1月12日より出発することが出来ました。農協はあくまで組合員の生産活動のためにある組織であります。自主、自立と民主的な運営はもちろんのこと、農家の抛り所となるべき組織だと思っております。今後も組合員、役員一体となつて目指すべき農協の姿になつてまいりたいと思っております。」と挨拶がありました。

議長には泊寿幸氏、小池孝義氏が選出され、出席頂いた方より書面議決にて過半数以上の賛成が得られており新型コロナウイルス感染拡大防止も含め、議案の一括上程をとるご提案があり、承認されたため8議案すべて一括上程の上、原案通り可決となりました。

また、信用事業譲渡などについて活発な質問・意見交換がなされ、併せて書面議決をいただく際に、たくさんのご意見を頂戴しましたのでご報告させていただきます。

総会終了後に行われました理事會において、左記の通り、役員が選出されましたので、ご報告致します。

■ 代表理事組合長

片岡 博

■ 理事

西村 和夫  
伊藤 佳幸  
谷岡 康成  
山口 修二  
小倉 正信  
藤村 英治  
大滝 康正

■ 代表 監事

渡辺 隆

■ 監事

野表 忍